

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677400121
法人名	有限会社 セントロメディコ
事業所名	グループホーム 春華苑
訪問調査日	平成 19 年 11 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4677400121
法人名	有限会社 セントロメディコ
事業所名	グループホーム 春華苑
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町新富563-1 (電話) 0994-65-7299

評価機関名	社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成20年1月24日

【情報提供票より】平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 14.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21000(光熱水費込 円)	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	4名	男性	0名	女性	18名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	2名		
年齢	平均 89.4歳	最低	78歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	春陽会中央病院 真愛会上園醫院 西の原歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大きな道路から、桜並木の小路に10メートル位入ると春華苑がある。静かな環境で第一、第二と独立した棟になっていて、いずれの玄関前にもプランターに季節の花が植えられ、職員と入居者の共同作業が思い浮かぶ光景である。ホーム内に入ると、雲が浮かぶ青空が廊下やホールの高い天井を埋め尽くし描かれて、明るくしている。職員の方々は明るい笑顔、落ち着いた態度である。入居者の方々もリラックスした和やかな雰囲気である。職員の方々は介護経験に応じた学習を積極的に取り組んでスキルアップさせている。運営推進会議を定期的開催し、地域密着型サービスへの活動向上が伺える楽しい事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の改善点5項目について、1.入居者の権利を重要事項に明記されていた。2.介護の基本である状況の記録については、生活情報13項目、病状調査9項目を作成し情報提供表が一人ひとり作成されていた。3.4.緊急時の手当てや継続的な研修についても年間計画を立て職員の育成がなされていた。5.市町村とのかかわりについては町内会に加入したり、運営推進会議に、毎回役場の職員が参加されたり、かかわりが進んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価表を配布し、記入してもらい、スタッフと話し合いをしながら計画作成担当者がまとめて作成している。改善課題のあった2項目は勉強会に盛り込み、他の1項目近隣の住民とのお付き合いができるようにするために、12月ホームの行事に参加してもらう計画がなされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は平成18年10月より2ヶ月に1回の割合で、開催されている。地域の行事情報を活かし参加している。家族の意見を反映して職員の勉強会をしている。暮らしの中での要望にも前向きに検討し、解決に結びつけ、報告されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会は発足していないが、ホームは年1~2回家族の方に集ってもらい話し合いの場を設け家族の意見を聞いている。相談苦情窓口も設置され、問題から解決、報告にいたるシステムもある。日常の小さな意見、苦情なども申し送りノートに記録し全員が目を通し不安解消の解決をしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入したり、運営推進会議で地域代表者より、地域行事の情報を受け、十五夜、カラオケ会、やぶさめ、掃除等参加している。近隣との交流をより深くするため、苑の方でも苑内の行事に地域の人から参加してもらえるよう12月にバザー、餅つき、クリスマス会を企画している</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	相手の気持ちを大切に、ゆとりある雰囲気大切に、心と心のふれあいを大切にしていこうという理念をつくりあげている。		今までの家庭的な環境の下での理念でなく、家庭的な環境と地域との交流のしたでという地域密着型サービスという現状に合った考え方に理念を作り変えられることを望む。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼で理念の唱和をして意識付がなされている。又毎週のミーティングにおいて、代表者が日々の業務が理念に基づいているかを発表し、日常の業務に全員がつなげてゆけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年から町内会に加入し、町内会の行事(十五夜、カラオケ会、やぶさめ、掃除)に参加している。中学校の職場体験学習の受け入れ、婦人会による掃除や、家族の知人による壁飾り等ボランティアの受け入れをしている。		近隣住民との交流を目指し、12月のクリスマス会、餅つき、バザー等のホームの行事を予定し、地域に案内を配る計画をしている。これが今以上地域の人との交流につながっていく事を期待したい。
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全員に渡し記入してもらい、それを基に話し合いをしながら各計画作成担当者がまとめて作成している。改善点を課題に改善計画を作成している。前回の外部評価の改善点も年間計画に取り入れ改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年10月より2ヶ月に1回運営推進会議の開催がなされている。会議での検討事項、懸案事項を持ち帰り改善、実行につなげ、取り組み状況の報告をするという形を繰り返しながらサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに役場の福祉課介護保険係長が毎回出席して、相談したいこと、意向等スムーズに伝えられる状況である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員は家族が日々の様子を一番知りたいと認識しており、毎月苑便りを発行している。苑便りの中に個人情報欄を設け担当者が一人ひとりの様子を書き各家族に配られている。金銭の預かりの人には出納帳のコピーに領収書を添付して報告をしている。急な連絡は電話をその都度している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別に家族会としてはないが、年に1~2回ホームから家族に集まってもらい意見の出せる場を設けている。日常においても家族からの意見、要望、苦情、相談があった場合ミーティングで話し合い対処、改善しそれらを運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は職員の異動がないよう、できるだけ雇用条件を良くし、固定化するよう努力している。職員が離職の場合家族に知らせたり、引継ぎがスムーズに移行できるよう勤務時間を組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から希望する学習のアンケートをとり、それを基に19年1月より毎月1回学習出来るよう研修計画を立て、開催している。経験年数に応じて段階的に1年、3年、5年と分け学習(服薬介助、パソコン、接遇マナー、脱水症、行事計画、ケアプラン作成、高齢者疾病、アセスメント、その他)できるようにしている。外部研修にも参加し研修報告し共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ敷地内にある系列のグループホーム、地域にあるグループホームと見学、情報交換をしている。協議会へ参加し事例の報告会、急変時の対応等勉強会をする機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者には事前にご家族や本人の見学機会を設け馴染んでもらう入居段階をとっている。又入居してからも不安な人には家族に面会を頼んだり、居室で一緒に食事をしたり、面会時間外にも拘らず対処している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者の方々が長い人生を歩んでこられた先輩ということを実感し、人生話を聞いたり、蕎麦作り、餅作り等を学んでいる。時には元気の無い職員の顔色を見て励まされることもあり人生の先輩であることを再認識させられる場面もあり、職員は感謝の気持ちを言葉や態度で示す等共に支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いや意向を口頭で伝えるだけでなく、気づいた人、意向を聞いた人は職員全員につなげるように申し送りノートに記録している。把握の困難な人は日常の動作から察知したり、家族からの聞き取り等から把握している。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護の基本をしっかり捉えるため本人、ご家族と話し合い、利用者の生活状況13項目、病状調査9項目を作成し全員が閲覧できる情報提供表を作成している。日々の中で職員の気づきをできるだけ細かく介護記録に記入し、それらを基にスタッフ全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化の無い人は3ヶ月、6ヶ月に定期的に見直しをしている。又変化のあった場合はその時点で見直しをしている。</p>		<p>高齢者は変化しやすい状況であるから、安定していても1ヶ月に1回の見直しをされ、現在の状況を確認、実情に即した予防的な対応を望みたい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	高山訪問看護ステーションと医療連携契約を結んで医療連携体制加算の指定を受けている。ドクターの往診を行っている。系列の病院の通院に付き添っている。買い物、散髪等の外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医の受診付き添いは家族が行うことを原則としているが、時と場合によっては、家族と話し合いの上、代わることもある。受診後の連絡は家族と綿密にしている。解かり辛い場合は病院に直接電話して把握している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医に相談し、病院の医師が終末期について話し合う方向や、介護の支援方法等の体制作りはできている。現在最終的な契約段階に至るまでの事態に無いため、契約はしていない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報法については勉強会をしている。職員に声かけの対応について ×形式で調査を行い、それを基に話し合いをしている。		日常の言葉かけによるプライバシーの問題、入室時のマナー、入浴やトイレ介助の羞恥心への配慮等プライバシー確保に関し職員で話し合いマニュアルを作成され、誰でも同じ対応ができるようになって欲しい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な1日の流れはあるが、朝食時間、起床時間、就寝時間、入浴時間、レクリエーション等本人のペースを大切に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむ工夫は、日頃嗜好を把握しており、買い物から調理、片付けまで本人の力量に応じ手伝いをもらっている。座席の配置に気配りし、職員も一緒に、同じ食事をし、食材や味付けを話題にしながら楽しい食事をしている。時には庭に場所を移して食事したり、2ヶ月に1回外食をするなど目先を変え楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂に入りたい人が多く、問題が起こらないよう公平にして、できるだけ希望に沿った時間に付き添って入浴支援をしている。風呂嫌いな人にも気持ちよく入浴してもらうよう家族の協力をもらったり、進んで入浴してもらうよう声かけに気を配っている。お湯は出しっぱなしで、いつもきれいな状態にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中でカレンダーめくり、カーテンの開閉、得意な料理、菓子作り、紙箱づくり、野菜作りの指導など役割をもってもらい楽しみごとに繋いでいる。おはじき、風船バレー等のレクリエーション、ドライブ、散歩、買い物、家族へ電話、行事参加等楽しみや気晴らしの支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にはホーム周辺の散歩や、車での買い物(一週間に3~4回)にでかける。職員が付き添ってユニット間の交流をしたり、庭に出てベンチに座る等支援している。一人で出かけた人には、その都度家族の許可を得て外出してもらうようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はしていない。出入り口は3ヶ所あり玄関にタッチセンサーが付けてあり、その他はブザーがついてモニターで見えるようになっている。現在見守りに問題のある人はいないが、外に出たい人に直ぐ対応できるように注意をしており、一緒に周辺を歩いて納得もらうなどしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、自然災害についてのマニュアルを作成し、火災訓練は昨年まで毎月行って全員周知できたので、今年は半年に1回の訓練をしている。運営推進会議のメンバーに参加してもらい問題点や意見をもらうなど改善に活かすようにしている。災害時に向けて水、食料の備蓄は業者と契約している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリー、水分の摂取量は把握されており、特に水分量に気をつけなければならない人は1日の流れの中で、尿量と共に記録している。食事の摂取量も記録している。法人の栄養課より献立を作成してもらい個人の好みを盛り込みながら栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の両脇に部屋がある作りで、天井にスカイブルーに白い雲を描き、天窓をつけ暗さをカバーしている。周辺の気になる音もなく、共用場所には時計や、テレビがあり、季節の花が生けられ、家庭に居るような雰囲気である。又一人になったり二人になったり過ごせるように場所が確保されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、洋室とあるが、洋室には床に畳も付いて落ち着けるようにしてある。西日が当たらないよう窓によすがかけられ、家庭から持ち込まれた布団、椅子、湯のみ、写真、鏡、時計等使い慣れた備品が持ち込まれそれぞれ個性のある部屋である。		